



都立府中療育センター新聞 第499号 発行日 令和元年7月1日

令和元年度 日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会 参加報告

院長 大島 哲

令和元年度 日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会が5月30日と31日の両日、水戸市の水戸プラザホテルで開催され、全国127の施設から400人余りが参加しました。当院からは釜看護科長と私が参加いたしました。

本年は理事等改選の年にあたり、新理事長の児玉和夫先生から就任挨拶がありました。続いて、厚生労働省障害福祉専門官の刀根暁氏より最近の医療政策に関する説明がありました。平成30年度の診療報酬改定を踏まえた今後の課題として、医療的ケア児の対応が詳細に述べられました。特別講演では、茨城東病院胸部疾患・療育医療センター小児科医長の竹谷俊樹先生より「重症児をとりまく現在の課題を考えるー茨城東病院での経験からー」と題して、主に茨城県の現状報告がなされました。長期入所者の高齢化と重症化が進んでいること、小児在宅医療施設との連携の必要性が強調されました。

翌31日の午前中には、シンポジウム「成人期に達した重症心身障害者の問題について」が開催され、4名からの発表がありました。堺市立重症心身障害者（児）支援センターの児玉先生は、入所時を含めた入所者の高齢化、医療必要度の高度化、障害度の高度化を指摘され、個々のきめ細かい対応が必要なことを述べられました。千葉県千葉リハビリテーションセンター「愛育園」園長の石井光子先生は、悪性腫瘍の発生状況、加齢に伴う摂食・嚥下機能の低下、呼吸機能の低下とともに親の高齢化を指摘し、園独自の「親亡き後の想いを伝えるノート」の紹介がありました。光の家センター施設長の鈴木郁子先生からは、同施設が埼玉医科大学の関連施設にあることや、地理的にも近いことの特徴を生かし、臨床医学的解析が報告されました。死亡年齢の上昇、がんなどの増加に加え、成人になった重症者の疾患特性として、呑気症や慢性腎臓病も報告されました。茨城県重症心身障害児（者）を守る会の佐藤芳昭氏は、親の立場から短期入所施設の絶対数の不足、休日の受け入れ態勢の拡充、入浴回数の増加の要望がなされました。午後は各委員会の報告がなされました。活発な討議があり、各施設が現時点においても、将来に向けても真摯にかつ活発に活動されているのが印象的でした。



遠足に行ってきました

通所 水嶋 暢

5月23日（木）と24日（金）の2日間、令和になって初めての全体行事となる遠足へ出掛けました。目的地は、2年前に雨天のため行くことができなかった「国立天文台」です。2日間で24名の利用者さんの参加があり、今年はとても良い天気恵まれて楽しい行事となりました。

天文台は最近、ブラックホールの撮影に成功したという報道もあり、とても関心の高まっているスポットです。敷地の中では「太陽系ウォーク」という、天体のサイズと距離をそのまま縮小して描かれた通路を通り、昔使われていた歴史ある望遠鏡の展示や、天体につ



いて映像で紹介する施設を見学しました。

天文台の隣にある「星と森と絵本の家」には、たくさんの絵本があり、避暑にも便利な場所でした。和室にマットを敷いて頂きバリアフリーとなった建物に、車椅子のまま全員が入ることが出来ました。食堂ではアイスの味見などもでき、楽しい雰囲気の中、令和初の行事を無事に終えることが出来ました。

バスハイクに行ってきました

5-A 福祉職

5月29日（水）、神代植物公園へ出かけてきました。明け方に少し降った雨も朝には上がり、暑過ぎず寒過ぎない過ごしやすい気候となりました。

現地へは4名の利用者さんと1名のご家族の方と出掛けました。利用者さんは大型バスに乗ると首を振って笑顔になり大喜びされ、その後は自己紹介をしたり、歌を歌ったりしながらバスドライブを楽しみました。

西洋式の庭園や大温室を散策したところ、数多くのバラが咲いており、その色や形の違いを楽しんで鑑賞しました。およそ1時間じっくりと散策することができ、充実したバスハイクとなりました。

センターへ戻った後は、こだわり抜いて撮影した数々の記念写真を厳選し、病棟で美しく掲示しています。



指導科行事「ミニ運動会」を開催しました

指導科 川手浩一

今回の指導科『春の企画』は、「メタセコイヤのセンターさよなら&ありがとう記念ミニ運動会」と銘打ち、6月4日にセンター全体を会場に使って開催しました。

運動会は開設以来センター全体で開催し、たくさんの思い出を刻んできましたが、利用者さんの高齢化などに伴い、10年近くの間、取りやめていました。

来年は新しいセンターに移転となるため、今のセンターでの生活は最後の1年になります。そこで、最後の年に相応しい行事で今のセンターでの生活に有終の美を飾ろうと、開催することになったのです。

最初の種目として、メタセコイヤの木まで走るとカードが貰える『メタセコイヤマラソン』を5月22日から6月3日まで実施しました。たくさんの方が敷地内にあるメタセコイヤの大木を巡って韋駄天の如く走りました。

配布したカードは400枚を超え連日大賑わいとなり、センターにメタセコイヤがあふれることになりました。

6月4日の当日は、最初に開会式を行い、各病棟で作ったトーチを先頭に堂々の入場行進、聖火点灯、院長の開会宣言、続いて赤組と白組から代表が1名ずつ選手宣誓を行い、立派に大役を務めてくれました。最後に巨大クラッカーを4名の代表が派手に打ち上げ、赤いテープが華やかに広がりミニ運動会がスタートしました。

最初の競技は『借り物競争』。好きなカードを選ぶと、そこには借り物の名前が書いてあります。カードを見て一斉にスタートし、院内の至る所に仕込まれた道具やお馴染みのキャラクター、さらには動物まで、みんなで院内の様々な場所を巡って目当ての物を探して持ち帰りました。普段なら何気なく通り過ぎてしまうようなところや、看護科長の部屋に訪問するなど、日常では味わえない“ミニ探検隊”のようなことも楽しめたようです。

次の競技は『玉入れ』。狭い会場内で安全に行うことを考慮し、一人ずつ順番にカゴに向かうようにして、自分の力で入れらるよう工夫しました。競技は2回行い、1勝1敗で仲良く赤白引き分けに終わりました。

最後にマラソンの結果が競技結果に加点され、最終結果は白組が表彰されることになりました。

結果発表の後はみんなで輪になり、事前にビデオを見ながら練習を重ねた「オクラホマミキサー」や「パプリカ」を楽しく踊って、笑顔が満開のうちにミニ運動会は終了となりました。

指導科では今後も、移転を迎える来年まで、最後の思い出を刻んでいけるように楽しい企画を考えていきたいと思っています。



合同行事（2階）を開催しました

2階病棟 保育士

5月29日(水)に2階合同行事を開催しました。

音楽ボランティアの矢野さん夫妻と御友人の方が、ギターの演奏と歌を披露してくださいました。矢野さん達の自己紹介の後、「歌と共に世界を周りましょう!!」との掛け声とともに「世界を旅するテーマ」の演奏がスタートし、その他にも「ジブリ作品主題歌」「J-POPメドレー」など多くの聞きなれた音楽を楽しむ事ができました。

利用者さんは、手や足でリズムを取る姿や、感極まって涙する姿も見られ、それぞれが音楽を感じて楽しんでいる様子が見られました。最後にはプレゼント交換を行いました。他病棟からも多くの方が参加し、賑やかな会を過ごすことができました。



お楽しみ会を開催しました

1-A 福祉職

1-A病棟では、5月24日に「春のお楽しみ会」を開催しました。今回のテーマは「楽しい春をシューティング!」です。

第一会場のデイルームでは「ダーツゲーム」を行いました。利用者の皆さんは特製の発射装置を使い、笑顔の中にも真剣で的の100点を狙っていました。



第二会場の中庭では、きれいに晴れ上がった青空の下で、水鉄砲の「射的ゲーム」を行いました。ペットボトル5本を的にし、全部倒すと50点になります。

それぞれの的に当たった点数を合計して、順位を決めました。

満点を獲得した方も多く、皆さんの腕前は、漫画に出てくる伝説のスナイパーのようでした。

他棟からもたくさんの利用者の皆さんが参加され、真剣な眼差しと笑顔のあふれた、楽しい一日を過ごすことができました。



〒183-8553
東京都府中市武蔵台2-9-2
東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115
Fax 042(322)6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>